



宮田中だより 2022年10月



電話 045-331-5288

「知識」から「知恵」へ

校長 村井 法泰

朝夕涼しさを感じる日も増え、秋の始まりを感じ始めた今日この頃です。本年度の文化祭は「合唱祭の部」を実施することができました。これまでの合唱コンクールから合唱祭へと変わった各クラスの発表は、学校生活の合間を縫っての練習時間ながらも、聴く者の心を打つ歌声がホールに響きました。「展示発表の部」は例年の通り、12月の個別面談中に行いますので、ご来校の際には足をお運びください。詳細は改めてお知らせいたします。

体育祭に向け、学年やクラスでの練習が始まっています。宮田中伝統の「大縄跳び」・「全員リレー」の朝練習に取り組む生徒たちの姿を見ることができるようになりました。体育祭は10月27日（木）開催予定です。肌寒い時期の開催となりますが、大縄跳びなど、生徒の十分な練習、学級のまとまりを作る時間の確保を考慮しました。宮田中らしい体育祭になることを願っています。

そしてもう一つ、「読書の秋」と言われるように、秋は学びを充実させる季節でもあります。宮田中学校では、本年度より定期試験を年3回実施に減らしています。これには、日常の授業の成果を大切にするという意味があります。2学期の定期試験は11月になります。生徒の皆さんには、日々の授業やレポート、小テストが定期試験に結び付くことを理解し、準備を進めて欲しいと思います。

英語には、book smart(ブックスマート) street smart(ストリートスマート)という表現があります。前者はいわゆる“頭でっかち 世間知らず”、後者は“叩き上げ 現場主義”という意味で使われます。Microsoftの創始者、Appleの創始者、Facebookの創始者（生徒の皆さんは誰だかわかりますか？）はstreet smartに分類されるようです。彼らはいわゆる一流大学に所属しながらも学業不振等で中退したり、自らの発想を事業として成功に導いたりした人たちだからです。創造性に欠けるといふニュアンスも含むbook smartでは、彼らのような成功はなかったということなのでしょう。

大学に入学してからの勉強、資格取得が難しいとされ、学歴社会の側面も持つアメリカですが、一方学歴がなくても“アメリカンドリーム”と呼ばれる大成功を手に入れるチャンスもあるということです。

生徒たちは今、生きていくうえで必要な知識や考え方を身につけています。これからの社会では、「知識を現場で役に立つ知恵に変換できる人」が今まで以上に求められます。学校での学びが、知恵を生み出す生徒の育成に結び付くよう、真価が問われ始めています。


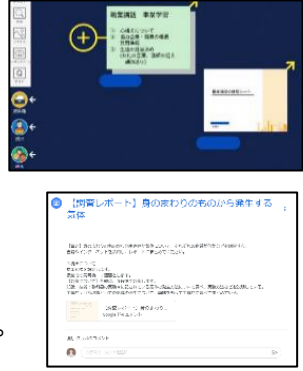
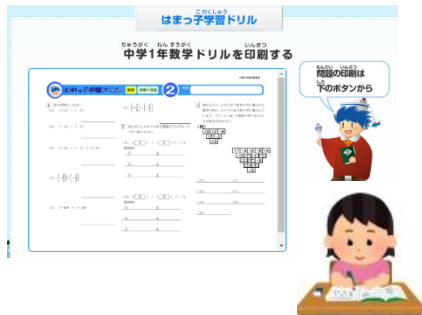
だれひとりと のこ さいまな きかい
 ~誰一人取り残さない学びの機会を~

みやたちゅうがっこう よこはま
 宮田中学校は『横浜どこでもスタディ』に取り組みます!

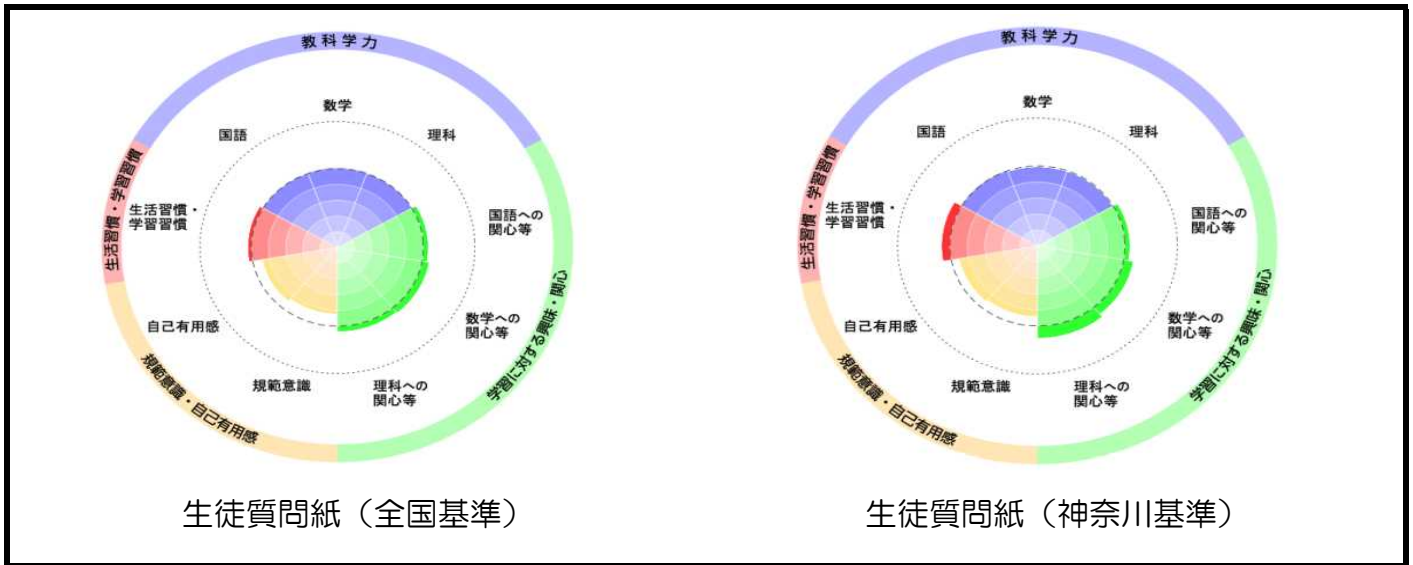
◎ コロナ不安や不登校など、様々な事情で一定期間授業が受けられない生徒の学習保障、GIGA スクール構想

による1人1台端末の有効利用、個別最適化された教育の実現などを目的として、本校でも『横浜どこでもス

タディ』に取り組みます。以下の内容の例について、必要が生じた場合は学級担任にご相談ください。

例	内容
1	<p>【Classroom (クラスルーム) でオンライン授業配信】</p>  <p>教室で行っている授業にリアルタイムで自宅から参加できます。</p>
2	<p>【板書や授業内容の*アーカイブ・オンラインを活用した課題提出】</p>  <p>ロイノート・スクールやクラスルームを活用して、授業で先生が黒板に書いた内容や配付 (配信) した学習資料を、自宅で好きなタイミングで確認することができます。課題の提出や、質問・回答のやり取りもオンラインで可能です。</p> <p>*アーカイブとはデータの保管のことで、ロイノートの資料箱や Google ドライブへの学習資料などの保管を指します。</p>
3	<p>【はまっ子学習ドリルに取り組む】</p>  <p>授業での学習資料や課題のほかに、横浜市が提供しているはまっ子学習ドリルに取り組むことができます。</p> <p>ロイノートやインターネットを活用して取り組むことができます。</p>

令和4年度 全国学力・学習状況調査より



(1) 生活意識調査

【分析】

ICTを学習に利用する機会は全国平均を大きく上回っている一方で、スマホ利用や利用に関するルールに関する意識や話し合い活動における自己表現については全国平均をやや下回った。教科授業や道徳などでChromebookの活用が進んでいる。

家庭での学習習慣は全国平均をやや上回っているが、「将来の夢があるか」という質問や自己肯定感は全国平均を下回っている。「学習内容が日常生活につながっている」と回答する生徒は多いが、自らの将来のイメージに結びついていないことが考えられる。

【課題に対する改善の手立て】

より多くの生徒の充実感を高めるため、すべての教育活動で「励ます・認める」ことを意識して取り組む。特に、進路学習や学級指導などの場面で、自分自身を振り返らせ、将来につながる考えを育む。

継続したICTの活用に関する意識を高める授業や支援を行い、実態把握に努める。

(2) 国語

【分析】

「話すこと聞くこと」や「読むこと」（小説・説明文とも）、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は正答率が全国平均を上回ったと読み取れる。しかし、「書くこと」の正答率は全国平均を下回り、解答の方法でいうと解答記述式の問題の正答率が低くなっている。また言語の問題に関しては全国平均を上回るものの、その中の漢字の書き・読みの知識の問題の正答率は低くなっている。

【課題に対する改善の手だて】

漢字については、日々の学習の中でさらに定着を図りたい。作文などの課題で、適切に漢字を使用することの指導を重点的に行い、「言語」能力を身につけさせつつ、全体的な文章力も磨き、「書く」能力を伸ばしていきたい。また感染症による制限がある中ではあるが、話し合い活動を盛り込み、留意点を体感させつつ学ばせたい。ICT機器を効果的に活用し、オンラインでディベートなどを行うことにも挑戦したい。

(3) 数学

【分析】

領域別で分析すると、「数と式」「図形」で正答率が高く、特に「図形」は全国平均の正答率より6%上回っていた。また、出題形式による正答率の偏りはほとんどなく、多くの問題で正答率が全国平均と同じくらいであった。一方、「関数」や「データの活用」の正答率は全国平均から4%ほど正答率が低く、式や値を求めることはできるものの、数量の関係の変化や対応から関数関係を見つけることへの理解や、データや資料の値を活用することへの理解に課題があるようである。

【課題に対する改善の手だて】

正答率は全国平均と同じくらいであるが、無解答の生徒が多い。理由として、出題内容の単元の理解というよりは、それ以前の課題があると考えられる。授業を行う中で、以前の内容を復習する機会を作るなどの工夫が必要である。また、このことから、「基礎・基本が身につけていない生徒」と「基礎・基本が身につけており、さらに応用がある生徒」の二極化が見られる、とも捉えられる。日々の学習の中で、どちらの生徒もそれぞれの力を伸ばせるような授業展開や教材の工夫に努めていく。

(4) 理科

【分析】

生活調査では、理科に関する興味が全国平均を上回っている。領域別に分析すると、「化学」「地学」を柱とする領域の問題が全国平均をやや下回った。全体では全国平均とほぼ同じであり、前年度の学習内容が定着していることが考えられる。問題別に分析すると、前述した「化学」「地学」では、実験結果などから多角的総合的に考察する内容を苦手としている。

【課題に対する改善の手だて】

これからも、生徒が理科学習に興味をもって取り組める授業づくりを展開していく。今後の学習内容では、小テストや章・単元ごとの振り返りを継続的に行い、基礎的知識の定着を図る。また、実験における予想や考察などを共有し、課題解決能力が高まる授業を重視して行う。

10月の予定

10月		授業日数 21 日	完全下校時刻 5校時 16:45 6校時 17:00	
日	曜	昼食	行事内容	備考
24	月	○	体育祭予行練習	体育祭関係のみ残留可 SC (雨天時 B6, 予行⇒B3,B4,B6)
25	火	○	小中合同研修会	完全下校14:35 ICT (24日雨天時 B3,B4⇒予行)
26	水	○		
27	木	○	体育祭	ICT (雨天時 道,E3~E5)
28	金	○	体育祭予備日	10時登校 (27日雨天時 体育祭)
29	土			
30	日			
31	月	○	3年 個別面談(~4日)	完全下校15:35 SC